

# NO! リニア

No. 1 1 7

2020年6月27日

J R 東海労働組合

J R 東海労HP  
にアクセス



## 静岡県知事との会談決裂！2027年リニア開業は事実上不可能に！ コンコルドの二の舞にならぬよう、建設中止の決断を！

リニア中央新幹線建設を巡り、川勝静岡県知事とJ R 東海金子社長とのトップ会談が6月26日、開催されました。金子社長は「6月中に静岡工区の準備工事に着手できなければ2027年開業は困難になる」として同意を要請しましたが、川勝知事は認めませんでした。「来週にも開業の延期と計画の見通しを表明する見通し」とも報道されています。

川勝知事は①大井川の水問題に対する認識、②2027年の開業が困難だとする理由、③リニア中央新幹線整備の意義などについて、金子社長に見解を求めました。

水問題についてはおろそかにするつもりはない、としましたが、「何を今さら」です。前言を翻し「大井川湧水全量回復」を撤回したり、必要なデータを開示しなかったり、有識者会議での高飛車発言が、大井川流域の住民に拭い去り難い不信感を与えてきたのです。

2027年の開業については、静岡県のせいで難しくなっているのではない、としています。逆に言えば、大井川の水問題は氷山の一角であって、あまり報道されていないリニア工事に関する解決されていない問題は沿線各地で起こっているということです。残土の問題や、ウラン鉱床の問題などがありますし、あちらこちらで沿線住民と軋轢を起こしています。

さて、川勝知事は「オンラインの方がリニアより速い」と指摘しています。安倍首相も「物理的な距離はもはや制約にならず、どこにオフィスがあっても、どこに住んでいてもいい。こうした新たな潮流を決して逆戻りさせることなく、加速していく必要がある、集中から分散へ」と述べています。コロナ後の社会は好むと好まざると、コロナ以前の社会ではありません。

今までの投資が惜しいからとこのままりニア建設を続けていたら、コンコルドと同じ失敗を犯し、J R 東海の社員が路頭に迷うことになりかねません。今こそリニア中央新幹線建設の中止をするべきです。